

紀の川市国民健康保険 第3期保健事業実施計画 —概要版—

1. 計画の背景・目的

保健事業実施計画（以下「データヘルス計画」という。）については、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」及び「高齢者の医療の確保に関する法律に基づく保健事業の実施等に関する指針」において、保険者は、データヘルス計画を策定し、PDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施及び評価等を行うこととなりました。

これらの背景を踏まえ、平成28年度に第1期保健事業実施計画（データヘルス計画）を策定、平成30年度に第2期データヘルス計画を策定し、保健事業の実施、評価及び改善を行ってきました。

また、生活習慣の改善により生活習慣病の発症、重症化を予防することで健康寿命の延伸を確保しつつ、医療費の抑制が可能であるとして、平成20年度に第1期特定健康診査等実施計画を策定、平成25年度に第2期特定健康診査等実施計画、平成30年度に第3期特定健康診査等実施計画を策定し、特定健康診査（以下「特定健診」という。）・特定保健指導に取り組んできました。

第3期保健事業実施計画においても引き続き、生活習慣病対策をはじめとする被保険者の健康の保持増進を図るとともに、医療費の適正化につなげます。

2. 計画の位置付け・実施体制及び関係者との連携

データヘルス計画は、被保険者の健康の保持増進及び健康寿命の延伸を目的として、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るため、特定健診・特定保健指導の結果、国保データベース（以下「KDB」という。）のデータ及びレセプトデータ等の健康・医療情報を活用して、PDCAサイクルに沿って運用することを目指しています。また、健康増進法に基づく基本方針を踏まえるとともに、特定健康診査等実施計画、紀の川市健康増進計画及び和歌山県医療費適正化計画等と調和のとれたものとする必要があります。データヘルス計画と特定健康診査等実施計画は、被保険者の健康の保持増進等目的、内容に共通点が多く、計画策定及び計画期間が同年度であるため、第3期データヘルス計画、第4期特定健康診査等実施計画を「第3期保健事業実施計画」として一体的に策定しました。

また、保健事業の実施にあたっては、健康づくり事業を所管する保健衛生担当部局及び那賀医師会等医療関係機関との連携が不可欠であり、計画の趣旨や内容の周知、連携の強化、協力体制の構築を図ります。

3. 計画期間

計画期間は令和6年度（2024年度）から令和11年度（2029年度）までの6年間とします。また令和8年度（2026年度）に評価・見直し（中間評価）を行います。

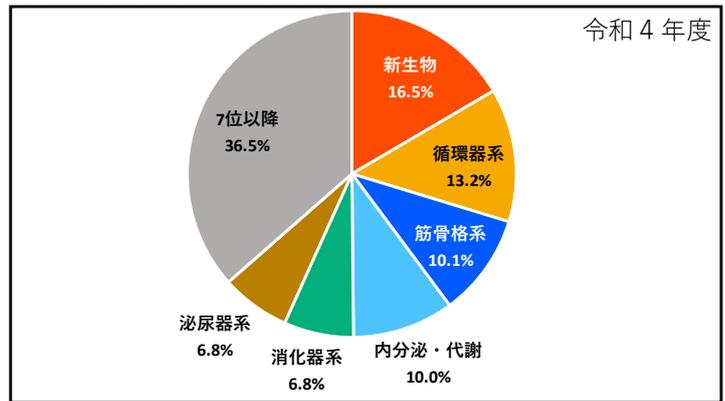
| 平成30年度～令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 |
|----------------------------------|-----------------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|
| | | | 中間評価 | | | |
| 第2期データヘルス計画 （平成30年度～令和5年度） | 第3期保健事業実施計画 | | | | | |
| 第3期特定健康診査等実施計画 （平成30年度～令和5年度） | （第3期データヘルス計画） （第4期特定健康診査等実施計画） | | | | | |

4. 紀の川市の状況

(1) 疾病大分類別の医療費状況

令和4年度の大病分類別の医療費では新生物が16.5%と最も高く、次いで循環器系13.2%、筋骨格系10.1%、内分泌・代謝10.0%となっています。

図表1 疾病大分類別の医療費状況

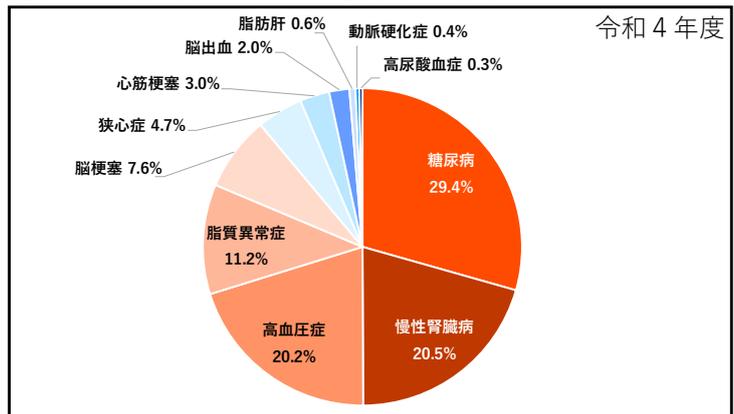


使用データ：KDBデータ「健康スコアリング（医療）」（S29_002）

(2) 総医療費に占める生活習慣病の割合内訳

総医療費に占める生活習慣病の割合内訳では、糖尿病が29.4%と最も高く、次いで慢性腎臓病20.5%、高血圧症20.2%、脂質異常症11.2%の順に高くなっています。

図表2 総医療費に占める生活習慣病の割合内訳

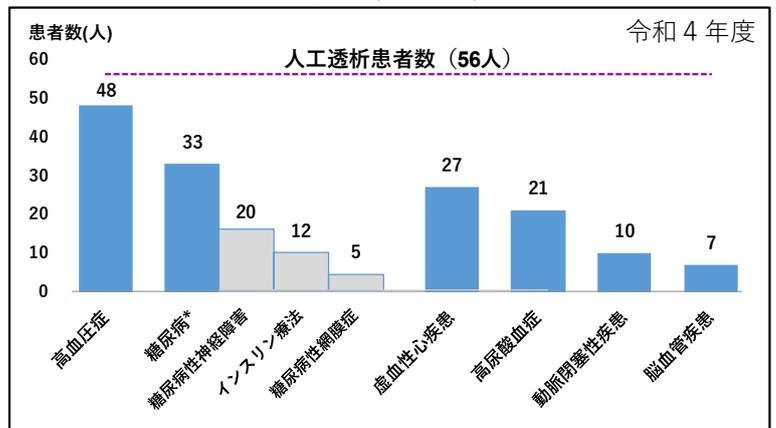


使用データ：KDBデータ「地域の全体像の把握」（S21_001）

(3) 人工透析患者の疾病状況

図表2 慢性腎臓病の内、人工透析患者56人の疾病状況をみると、高血圧症48人、糖尿病33人、虚血性心疾患27人の順に多く、大多数が生活習慣病を併発しています。

図表3 人工透析患者の疾病状況（延べ人数）



使用データ：KDBデータ「健康スコアリング（医療）」（S29_002）

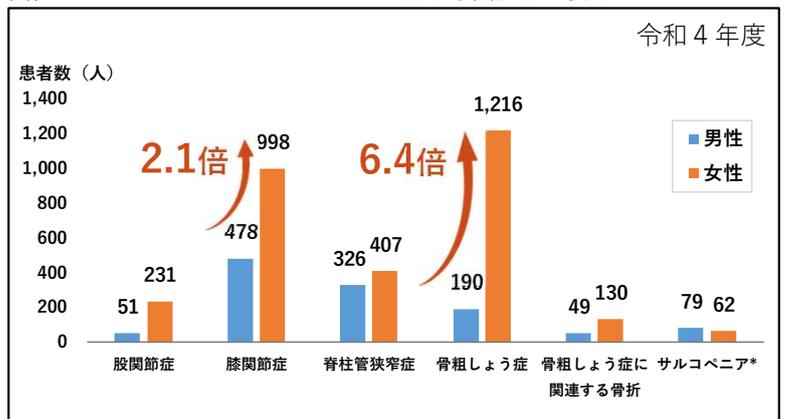
糖尿病*

糖尿病患者数には、糖尿病性神経障害、インスリン療法、糖尿病性網膜症の者を含む。

(4) ロコモティブシンドローム*の主な原因疾患の状況

図表1の筋骨格系疾患患者の主な疾病の内訳をみると、膝関節症、骨粗しょう症、脊柱管狭窄症、股関節症の順に多くなっています。一般的にロコモティブシンドローム及び、その原因疾患については、男性と比べて女性の患者数が圧倒的に多い疾患であり、市でも同様の傾向となっています。特に骨粗しょう症で6.4倍、膝関節症で2.1倍男性より多くなっています。

図表4 ロコモティブシンドロームの主な原因疾患の状況



使用データ：レセプトデータ（医科）、被保険者データ

ロコモティブシンドローム*

骨や関節の病気、筋力の低下、バランス能力の低下によって転倒・骨折しやすくなることを指します。

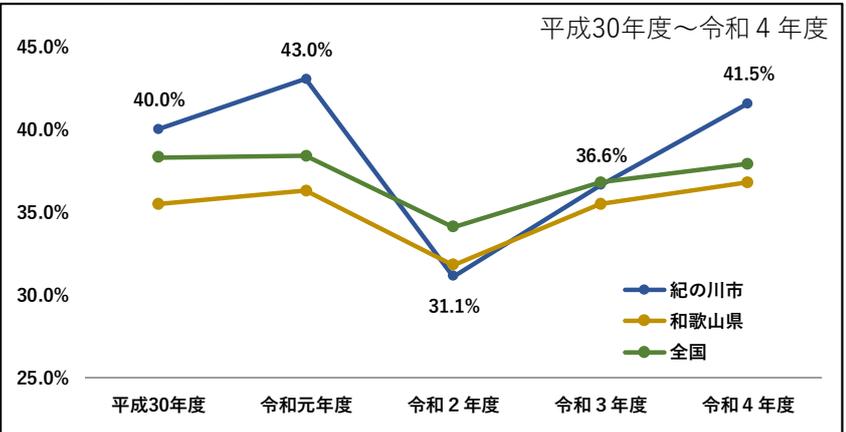
サルコペニア*

加齢による筋肉量の減少及び筋力の低下のことを指します。

(5) 特定健診受診率

紀の川市における令和4年度の特定健診受診率（法定報告値）は41.5%で、県、全国を受診率より高くなっています。また経年では令和2年度に31.1%と県、全国より大きく受診率が低下しましたが、令和4年度では、令和元年度の水準に戻りつつあります。

図表5 特定健診受診率の推移

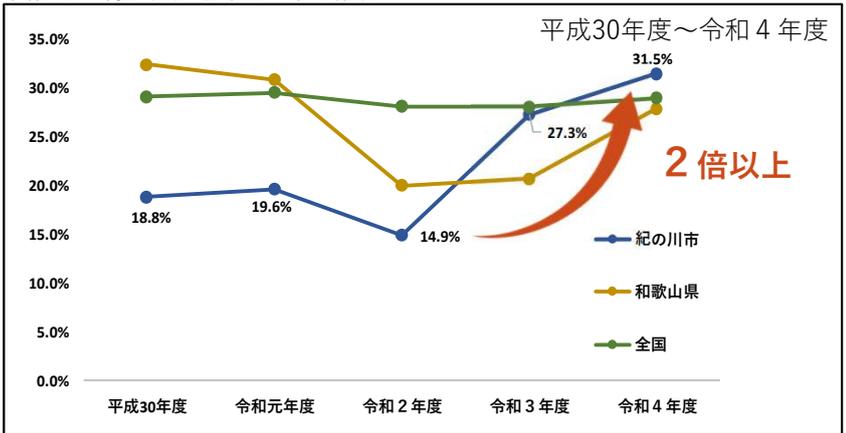


使用データ：法定報告

(6) 特定保健指導実施率

令和4年度の紀の川市における特定保健指導実施率（法定報告値）は31.5%で、県、全国より高くなっています。県、全国と比較して、令和2年度までは市の実施率が最も低くなっていますが、令和4年度の実施率をみると2倍以上の増加がみられます。

図表6 特定保健指導実施率の推移

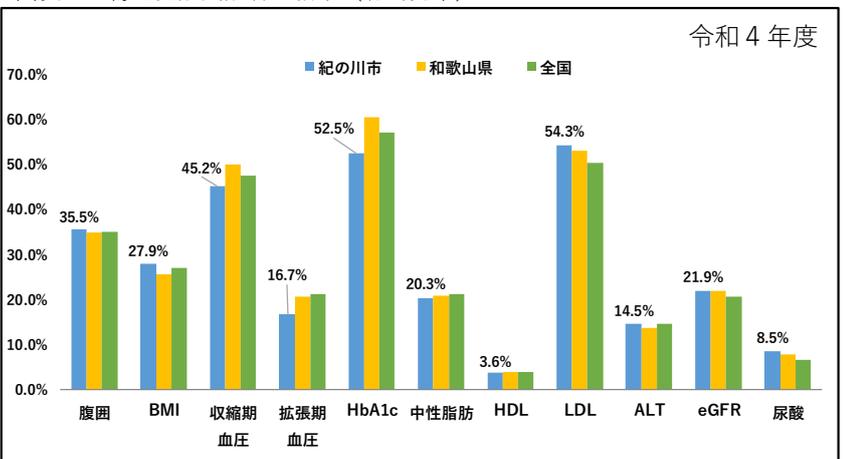


使用データ：法定報告

(7) 特定健診受診者の結果（有所見率）

特定健診の有所見率をみると、全体でLDLコレステロール54.3%、HbA1c52.5%、収縮期血圧45.2%の順に高くなっています。県と比較して、腹囲、BMI、LDLコレステロール等の有所見率が高くなっています。

図表7 特定健診受診者の結果（有所見率）

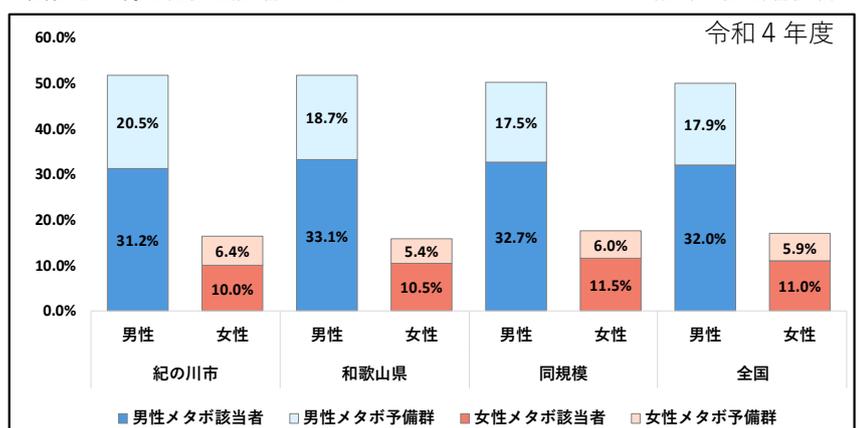


使用データ：KDBデータ「厚生労働省様式（様式5-2）健診有所見者状況（男女別・年代別）」（S21_024）

(8) メタボリックシンドローム予備群・該当者割合

特定健診受診者のメタボリックシンドロームの予備群・該当者の割合をみると、女性に比べて、男性の割合が高くなっています。また、県、全国と比較すると、男女ともに該当者の割合は同程度となっているのに対し、予備群の割合が高くなっています。

図表8 特定健診受診者のうちメタボリックシンドローム予備群・該当者割合



使用データ：KDBデータ「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」（S21_003）

5. 健康課題

| 健康課題 | | 優先する健康課題 | 対応する保健事業番号 |
|------|-----------------------------------------------------------------------|----------|------------|
| A | 生活習慣病に関する疾患の医療費（循環器: 2位、内分泌: 4位）が上位であり、高血圧症、糖尿病、脂質異常症の発症予防に取り組む必要がある。 | 1 | 1,2,3,4,5 |
| B | 健診結果で腹囲、血圧、血糖、脂質の有所見率が高く、生活習慣の改善に取り組む必要がある。 | 2 | 1,2,3,4,5 |
| C | 腎不全は患者1人当たりの医療費が高く、人工透析患者数も横ばいであることから、腎不全及びその主な原因疾患としての糖尿病への対策が必要である。 | 3 | 1,2,3 |
| D | 健診結果で血圧、血糖、脂質のリスク保有者が多く、未治療者が多いことから、血圧、血糖、脂質のコントロールを行い、重症化を予防する必要がある。 | 4 | 1,2,4,5 |
| E | 健診受診者のうち運動習慣のある者が半数に満たないことや、加齢に伴う筋骨格系疾患患者が増加しているため、対策が必要である。 | 5 | 1,2,5 |

6. 健康課題に対応する個別の保健事業

1. 特定健診未受診者対策事業

目的

特定健診の受診率を向上させ、メタボリックシンドロームや高血圧症、糖尿病、脂質異常症等の生活習慣病を早期発見し、早期対策に結びつける。

対象者

40歳～74歳の紀の川市国民健康保険加入者

| 項目 | 評価指標 | 計画策定時実績(R4) | 目標値 | |
|--------|--------------------|-------------|----------|-----------|
| | | | 中間評価(R8) | 最終評価(R11) |
| アウトカム | 特定健診受診率 (%) | 41.5 | 51.0 | 60.0 |
| アウトプット | 特定健診未受診者に対する勧奨率(%) | 100 | 100 | 100 |

2. 特定保健指導未利用者対策事業

目的

対象者が自分の健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取組を継続的に行うよう支援することで、特定保健指導対象者の減少を目指す。

対象者

特定保健指導基準該当者

| 項目 | 評価指標 | 計画策定時実績(R4) | 目標値 | |
|--------|----------------------------|-------------|----------|-----------|
| | | | 中間評価(R8) | 最終評価(R11) |
| アウトカム | 特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率 (%) | 22.6 | 27.0 | 31.5 |
| アウトプット | 特定保健指導実施率 (%) | 31.5 | 37.5 | 43.5 |

3. 糖尿病性腎症重症化予防事業

目的

糖尿病性腎症の重症化を防ぎ、新規透析患者の抑制を図る。

対象者

・40歳～74歳の紀の川市国民健康保険加入者のうち、空腹時血糖126mg/dl以上またはHbA1c6.5%以上（1型糖尿病を除く）であり、医療機関受診勧奨・保健指導が必要と判断される者
・糖尿病の治療中断者

| 項目 | 評価指標 | 計画策定時実績(R4) | 目標値 | |
|--------|--------------------------|-------------|----------|-----------|
| | | | 中間評価(R8) | 最終評価(R11) |
| アウトカム | HbA1c8.0%以上の者の割合 (%) | 1.1 | 0.8 | 0.5 |
| | HbA1c6.5%以上の者の割合 (%) | 9.0 | 8.7 | 8.4 |
| | 保健指導利用者のHbA1cの維持・改善率 (%) | 85.7 | 87.0 | 88.5 |
| アウトプット | 受診勧奨対象者の受診率 (%) | 71.0 | 72.5 | 74.0 |
| | 保健指導の終了者の割合 (%) | 11.0 | 17.0 | 23.0 |

4. 生活習慣病重症化予防事業

目的

特定健診の結果、受診勧奨判定値以上の者について、医療機関への受診につなげ重症化予防を行う。

対象者

集団健診受診者で生活習慣病に関する受診勧奨判定値以上の者

| 項目 | 評価指標 | 計画策定時実績(R4) | 目標値 | |
|--------|------------------------|-------------|----------|-----------|
| | | | 中間評価(R8) | 最終評価(R11) |
| アウトカム | 受診勧奨対象者の受診率 (%) | - | 72.5 | 74.0 |
| アウトプット | 初回通知での医療機関未受診者への勧奨率(%) | - | 60.0 | 75.0 |

5. 運動習慣定着促進事業

目的

生活習慣病の予防・改善とロコモティブシンドロームを予防するために、運動習慣を有する者の増加を目指す。

対象者

特定健診受診者で生活改善が必要な者

| 項目 | 評価指標 | 計画策定時実績(R4) | 目標値 | |
|--------|----------------------------|-------------|----------|-----------|
| | | | 中間評価(R8) | 最終評価(R11) |
| アウトカム | 特定健診受診者のうち運動習慣を有する者の割合 (%) | 42.1 | 45.5 | 50.0 |
| アウトプット | 運動継続支援事業利用者数 (人) | 11 | 50 | 80 |